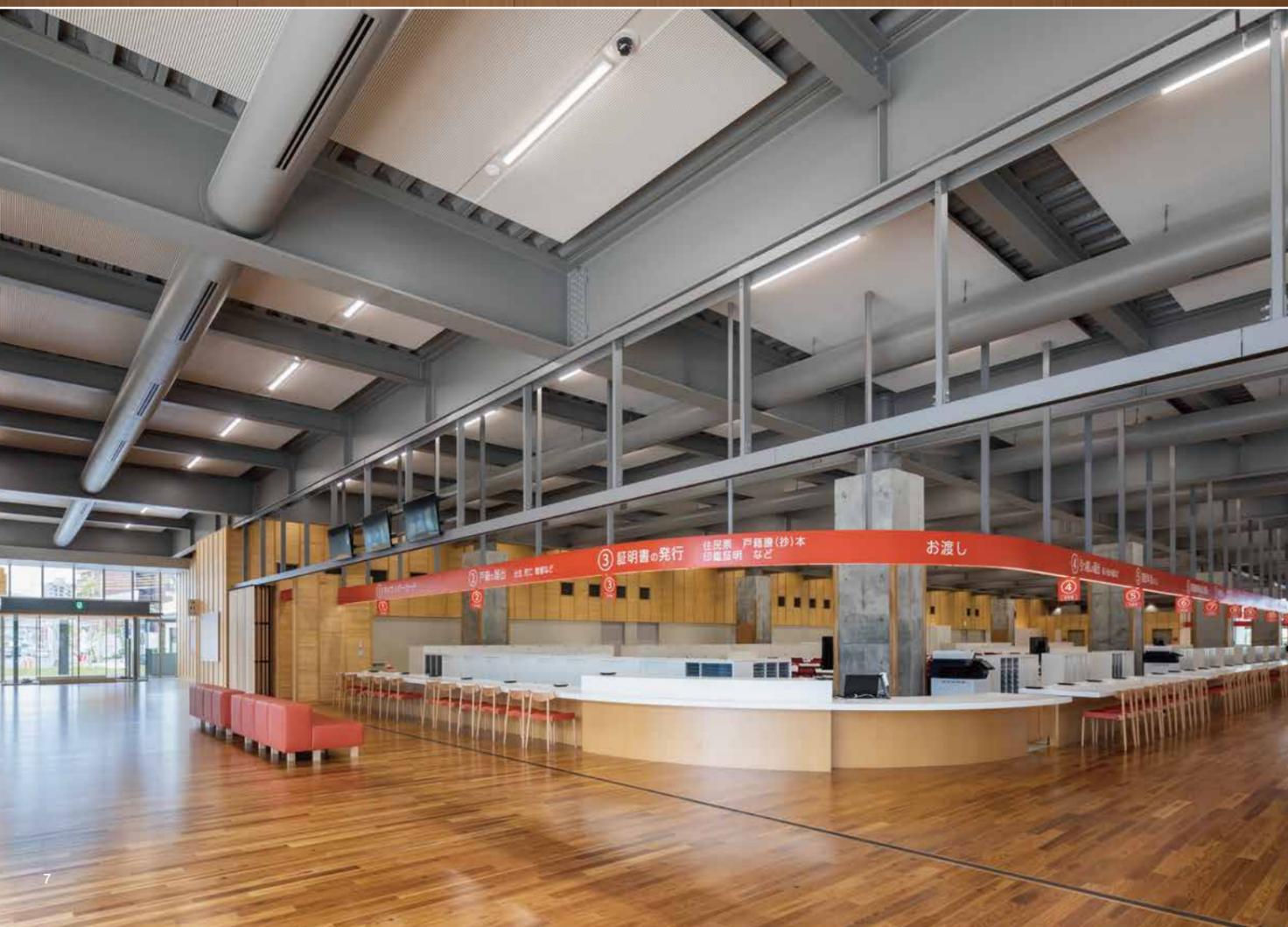


鳴門市新庁舎





南海トラフ巨大地震を想定した フェーズフリー設計のZEB庁舎

鳴門市は庁舎の床面積を旧庁舎の約2.5倍に拡張し、分散していた部署を集約して2024年5月から新庁舎で業務を開始した。1963年に竣工した旧庁舎の設計は、日本におけるモダニズム建築の第一人者である増田友也氏。しかし築後60年近くを経て、庁舎機能の分散による市民サービスの低下や施設・設備老朽化などの課題を抱え、2004年度の耐震診断では倒壊・崩壊の危険性が指摘されていた。とくに、今後30年以内の発生確率が最大80%とされる南海トラフ巨大地震の防災対策推進地域に指定された鳴門市では、基幹施設である市役所本庁舎の耐震性能向上が求められた。

このため、約1.3mの盛り土により地盤をかさ上げするとともに、約90cmの擁壁と防潮扉も設置して建物内部への浸水を防ぐように計画。南北には外部階段を設置し、災害時に市民が逃げ込めるように計画された。市民が訪れることの多い受付窓口を集約した1階で目立つのは太い鉄骨鉄筋コンクリート柱。各柱の床下には、地震の揺れを建物に直接伝えない免震装置が設置されており、想定以上の津波の漂流物対策として漂流物の衝突に耐えるようコンクリートで補強されている。また、巨大な鉄骨梁の間にLEDベースライトを配することでベース照度を確保している。

ここでは、防災に対してフェーズフリー思想^{*}が導入されている。2階には広いエレベーターホールと隣接してガラスで仕切られた大会議室が設けられているが、ここは災害時に外部階段からアクセスできる場でもあり、大人数の収容も可能である。

また、ZEB実現もめざされており、日射制限や自然換気、自然光を積極的に取り入れ、調光システムにより昼光連動や人感センサーで照明電力を削減。さらに太陽光発電と蓄電池を組み合わせることで自家消費率を向上し、CO₂排出量も削減。これによりZEB Ready認証も取得されている。

◀ (上) 県産杉材のルーバー越しに光天井も設けられている議場
(下) 巨大な鉄骨梁の間にLEDベースライトが設置された、受付窓口が集約されている1階

鳴門市新庁舎

所在地 / 徳島県鳴門市撫養町南浜東浜
事業主 / 鳴門市
設計・施工 / 前田建設・吉成建設・内藤建築設計特定建設工事共同企業体
開庁 / 2024年5月
規模 / 地上4階建(延床面積10,694.27m²)



災害時には避難スペースとしても使える広い2階エレベーターホール



エレベーターホールに隣接した2階大会議室



4階の委員会室



鳴門市が一望できる4階展望ロビー



折り上げ天井にベースライトが設置された議会応接室



内部と外部の視覚的連続性を持たせるようにガラスパネルが採用された会議室



屋上の産業用太陽電池モジュール(295W×106枚 31.27kW)



2~4階に設けられたパワーステーションダブル(11kW×3台)と産業用蓄電池(5.6kWh×6台)



照明制御システム「FreeFit」

主な納入設備

- LED照明器具
- 照明制御システム「FreeFit」
- 太陽光発電システム
- 産業用太陽電池モジュール
- 産業用蓄電池
- ネットワークカメラ

^{*}「日常時」を豊かにするものを「非常時」の時も役立つようにデザインしようという考え方